

平成維新憲章

(1993年4月10日『平成維新の会』全国大会にて採択)

1. 私たちは、官僚や政治家に全て任せきりの無責任なサイレント・マジョリティーにとどまることなく、理想を語り、政策を論じ、自らの意思で代表を選ぶ真の主権者となります。

1. 私たちは、何から何まで政府に過度に依存する従来の受益者意識と決別し、自由な競争と自己責任の原則に貫かれた公正で活力に満ちた社会を構成する啓発された生活者となります。

1. 私たちは、政界官界財界に蔓延する利権構造の温床となった中央集権システムを解体し、自立した地方が主体的に運営される真の地方自治を実現します。

1. 私たちは、個人を尊び、家庭を重んじ、コミュニティにおける責任を自覚し、国を愛し、世

界の一員として尊敬と信頼を得るよう積極的に行動する真の国際人となります。

1. 私たちは、生活の質を向上させ、コストを下げることを政治の第一の課題とし、そのために規制緩和や保護主義から開放主義への転換など行政の大改革を行い、生活者主権の国を創るまで、日本全国で建設的な活動を続けます。

平成維新の誓い

私たちは この市民運動を通じて
生活者である私たち国民の手に政治を取り戻し
家庭を愛しコミュニティを重んじ
生活の豊かさを実感できる
そんな社会づくりの実現に努めることを
誓います

「アジア連邦の世紀」を読んで

新宿区 浦上 登

大前研一氏による著書であるが、改めて氏は日本にとって得難い人物だと思う。この本を読んだ人はきっとそう思うに違いない。政治・経済・社会等が地球的規模で大激変している現在、このような人物を日本が生かしていないのは誠に残念でならない。

日本システムが至るところで崩壊し、新しい展望が見えないだけに、単なる評論家ではなく、アジアの有力トップリーダー（アジアに限らないが）と忌憚なく語り合える信頼関係を形成しており、シンクタンクのなビジョンや時代先取りに具体的な政策も持ち合わせており、返す返すも都知事選に落選した事が惜しまれてならない。都知事になっていたら、今頃アジアのリーダーが都庁を出入りして（地域国家群）交流が盛んになっていて、永田町が浮き上がっていたかも知れない。

世界の潮流・日本の選択の中で日本が自助能力でビッグバンが出来ないので、同志一同が平成維新を共通の認識で戦ったのは、今でも間違っていなかったと確信する。

さて、かく言う私は今から45年前に田舎（富山）の高岡工芸高校の絵画・デザイン科に入学し日本画の時間に、明治初期に上野芸大を創校した岡倉天心

氏が世界各地を廻って宗教・文化・芸術・民族・習慣等からアジアの共通性を見抜いて「アジアは一つなり」と喝破された事を学んだことからアジアの一体観をもって来ました。

今一つ、吉田茂氏と言えば戦後日本のワンマン首相として知られるが氏の著書「大機随想」の中に、外交に「勤」のない国は亡びる・・・と指摘し、アングロサクソンはこの勤に優れていて世界をリードしていると言っておられる。

時代は流れて大前研一氏の「アジア連邦の世紀」を読んでその具体的な構想や政策から、アジアで貢献することこそ日本の平和や安定した発展につながるものと思われる。大前氏も指摘している通り日本は政治的にはアメリカに弱い（圧力や脅かし）、アジア政策は分かっていると思うように出来ない。大前氏は決して反米ではないが、国民のほとんどはアメリカは決してフェアな国とは思っていない。

そこで思うのだが「逆も真なり」民族性としてアジアの自然・感情性に対し欧米の科学・理論重視の違いもあり、大前氏のリードの下で政治はそのままにして、共通性のある人事交流そして経済面からアジア連邦が出来ないものだろうか？このような具体的活動が意外に平成維新に波及するかも知れない。